

王 秋(おうしゅう)

登録番号：第11118号	櫻村芳紀 小園照雄 福田博之
登録年月日：平成15年3月17日	木原武士 鈴木勝征
登録者：(独)農業・生物系特定産業技術研究機構	来歴：「C ₂ 」(「慈梨」×「二十世紀」)と「新雪」の交雑実生
育成者：町田 裕 梶浦一郎 壽 和夫	育成地：茨城県つくば市藤本 ((独)農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所)
佐藤義彦 増田亮一 阿部和幸	
栗原昭夫 緒方達志 斎藤寿広	
寺井理治 西端豊英 正田守幸	

特 性

■栽培特性

樹勢は強く、「新高」や「晩三吉」より強い。枝は長く、太く、中程度の密度で発生する。短果枝の着生は多いが、腋花芽の着生は中程度である。開花期は「豊水」と「幸水」の間である。結実性は良好で、「新高」、「晩三吉」と同程度の初期収量が得られるが、自家結実性は低い。「幸水」とは交雑不和合であるが「豊水」および「ゴールド二十世紀」とは交雑和合性である。

■果実特性

晩生の赤ナシである。果形は円楕円形であるが、最大横径がより「ていあ」部に近い倒三角形の果実も多数混在する。ただし、果実の揃いは良好で、果形についての問題はない。

1果平均重は700g前後で「新高」や「晩三吉」と同程度に大きく、果皮は黄褐色を呈する。果梗は長く、太さは中程度で、肉梗は認められない。果肉は雪白色、果肉硬度は「新高」や「晩三吉」より軟らかく、肉質は緻密で多汁である。果汁の屈折計示度は12%前後で「新高」と同程度であるが「晩三吉」より高く、晩生種としては高糖度である。果汁のpHは4.5前後で「新高」と「晩三吉」の中間で、食味上強く酸味を感じることは少ない。渋味はなく、中国ナシに似た香気がある。芯腐れとみつ症の発生はわずかにみられる。

収穫期は育成地のつくば市で10月下旬から11月上旬で「新高」よりも遅く、「晩三吉」よりもやや早い。果実の貯蔵性は良好で、28日以上の日持ち性が認められる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒斑病には抵抗性で、黒星病などの主要病害に対しても赤ナシの慣行防除で対応が可能である。また、特に問題となる虫害も見られない。

短果枝の着生が良好でその維持も容易であることから、短果枝利用型の品種といえる。成熟期前後の果皮色の変化が小さく、収穫適期の判定が難しいので注意が必要である。また収穫前落果が発生しやすいが、これに対しては落果防止剤の効果が認められているので散布することが望ましい。

年次によってみつ症や芯腐れが発生することがあるが、症状は軽微であり通常は大きな問題とはならないと考えられる。また褐色斑点状の果肉崩壊が発生することがあり、年次によっては目立つ場合がある。この患部が貯蔵中に拡大したり、腐敗を招いたりといった例はこれまでに見られていないが、注意する必要がある。

■地域適応性

「晩三吉」の少し前に成熟する晩生種であり、冷え込みが早い東北地方での栽培は難しいと考えられる。このため、「晩三吉」等の晩生品種の栽培が可能な、関東地方以南の晩秋の冷え込みが穏やかな地域に適すると考えられる。果実の貯蔵性は良好であることから、いわゆる貯蔵ナシとしての利用も可能である。

(高田教臣)